

命を助ける人であってほしい

岐阜聖徳学園大学 教授

玉置 崇



玉置崇（たまおきたかし）。愛知県出身。小中学校教諭、教育事務所長などを経て、現岐阜聖徳学園大学教育学部教授。多数の教育研究会などを立ち上げるなど、学校や授業づくりの第一人者。

今年の三月末まで愛知県小牧市立小牧中学校長でした。中学校で取り組んだ「命を実感するプロジェクト」について紹介したいと思います。

「命を実感するプロジェクト」を始めたのは、学年主任の一言がきっかけです。

小牧市では、教職員全員が消防署において普通救命講習を受け、いざという時に心肺蘇生法やAED活用ができるようにしています。その講習を受けて学校に戻ってきた学年主任が「校長先生、救命講習は中学生も受けるべきですね」と言ったのです。

この一言は、東日本大震災発生時の釜石の中学生を思い出させました。「中学生は助けられる人でなく、助ける人だ」という言葉通り、あの時、釜石の中学生はお年寄りや幼児を高台まで移動させ、津波から多くの方々の命を守ったのです。

我が校の生徒も、いつ何時、命の危険が迫った人に出会うかもしれません。そのときには「命を助ける人」であってほしい、命を尊び、命を大切にする人になってほしいという願いを「命を実感するプロジェクト」に込めました。

小牧市消防署に三年生（三百人強）対象の講習会開催を相談したところ、快諾して

いただきました。消防署の皆さんには、夏休み中に何度も学校に来ていただき、三年生全員が修了証を取得することができました。「本校は卒業証書と普通救命講習修了証がもらえる学校となりました」と地域の皆さんらに胸を張ることができました。

また、鈴木中人さんが自己体験をもとに「いのちの授業」をやっておられることを知りました。鈴木さんの話をぜひ生徒に聞かせてやりたいという思いが抑えられなくなり、講演会「いのちの授業」を開催しました。全校生徒はもちろん、保護者にも聞いていただきました。

鈴木さんの語りが進めば進むほど、涙する生徒の姿が増えてきます。最後の「親より先に死んではいけない」という鈴木さんの叫び！と表現してもいい言葉を深く心にとどめた生徒がたくさんいました。目を真っ赤にした保護者が何人もおられました。

翌年には鈴木さん製作の映画「四つの空のちにありがとう」を全校生徒と保護者で鑑賞し、四組の家族の日常から生きることを深く考える機会としました。

ひよんなことから関西大学社会安全学部の城下英行先生との出会いが生まれました。防災教育の専門家です。「命を実感するプロ

ジェクト」を推進する学校だからこそ、出会いがあったと考え、小牧中学校と関西大学は遠く離れていますが、関わっていたたくようにお願いしました。そこで生まれたのが、「愛マップ」という活動です。

この活動は、生徒や保護者の有志、心ある保護者OBや学生さんらによって行われている地域防災を高める活動です。将来的には、街の防災情報を始め、安心・安全の視点から街の移り変わり等が、だれもがネットで閲覧できるようにする活動です。「愛マップ」という名称は、城下先生が言われた「防災は愛する人を守ることが原点にある」という言葉から、生徒が命名したものです。まさに活動に「命」を吹き込んだわけです。

さらに、命を重点テーマにした道徳授業の実施、図書館には命に関する本を集めたコーナーの設置など、全校体制で「命を実感するプロジェクト」を行いました。

現在、大学で教師を目指す学生の教育に携わっています。教師は、子どもたちの命を育みます。命を助ける人であってほしい、それを私の教育の原点として伝えていきたいと思っています。

